

「決まる」と「決める」の意味分析

李 澤 熊

キーワード：多義語、多義構造、比喩、コロケーション、誤用例分析

1. はじめに

動詞「決まる」と「決める」は基本動詞として扱われ、日本語教育において重要な学習項目の1つとなっている。しかし、「決まる」と「決める」は多様な意味を担っている多義語（注1）であるため、その学習指導方法というのは必ずしも容易ではない。

さて、現在刊行されている辞典・辞書類を調べてみると、「決まる」と「決める」は多義語として扱われているが、それらの意味を選んで掲げる基準は必ずしも明らかではない。また、当然のことながらそれぞれの意味の相互関係も不明確である。

そこで、本稿ではまず「決まる」と「決める」が持つ、それぞれの複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性（多義構造）を明らかにする。また、この2語は自・他対応動詞であるが、別義間の対応関係についても検討する。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討する。なお、「決まる」と「決める」の複数の意味の関連性については、提喩（シネクドキー）と換喩（メトニミー）という2つの比喩の観点から考察する（注2）。それぞれの定義は初山・深田（2003）に従い、以下のように示す。

シネクドキー：より一般的な意味をもつ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆により特殊な意味をもつ形式を用いて、より一般的な意味を表す比喩（p.79）。

メトニミー：2つの事物の外界における隣接性、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩（p.83）。

2. 「決まる」と「決める」の意味分析

2.1. 「決まる」

本節では、「決まる」について6つの多義的別義を認め、考察を行う。

2.1.1. 多義的別義 (1) (基本義) : <不確定・未定であった><物事 (の結果) が> <はっきりする> (「決める」別義 (1) に対応)

- (1) 先日の日本語コースの会議で、来年使う教科書が決まった。
- (2) 娘の保育園がなかなか決まらず、困っている。
- (3) 株主総会で、山田氏が次期会長に決まった。
- (4) 社長の海外出張の日程が決まったら、お知らせください。

別義 (1) は、それまでどうなるか分からなかった物事が、明らかになる (一つの結果に落ち着く) ことを表す。例えば、例 (1) の場合「来年使う教科書が先日の会議で、はじめて明らかになった」というようにとらえられる。

2.1.2. 多義的別義 (2) : <ある事柄に対する><人の心情が><はっきりする> (「決める」別義 (2) に対応)

- (5) もう離婚する覚悟は決まりましたか。
- (6) どの車種も人気があって、なかなか心が決まらない。
- (7) 中学校に入るときに、すでに父のあとを継ぐ気持ちは決まっていた。
- (8) 彼は前々から退職する意思が決まっていたようだ。

別義 (1) は、「それまで不確定・未定であった物事がはっきりする」ということを表しているが、この「決まる」は、様々な物事の中でも特に「人間の心情」に限定して用いられ、「(人の) 心がはっきりと一つに定まる」ということを表している。つまり、別義 (2) は別義 (1) がさらに限定されたものととらえられ、提喩 (シネクドキー) によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.1.3. 多義的別義 (3) : <ある事柄が><疑う余地がないものとして><判断される>

- (9) まだ2月なんだから寒いに決まっている。
- (10) 全く勉強していないんだから、試験に落ちるに決まっている。

- (11) 毎日残業させられたら、体を壊すに決まっている。
- (12) 高校生の娘を、一人で海外旅行させるなんて、無理に決まっているじゃないか。

別義(2)は「ある事柄に対して、人(話者)の心がはっきりと一つに定まる」ということを表しているが、この「決まる」は、さらに進んで問題となる事柄に対して当然そうである、間違いないという「話者の確信度の高い推量」を表していると考えられる。つまり、別義(3)は別義(2)から時間的隣接に基づく換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。というのは、視覚などの感覚器官を通して知覚する行為と、その対象の知覚だけではとらえられない側面を理解し、判断を下す行為とが、時間的に隣接(連続)して生じているということである(注3)。なお、この「決まる」は「～に決まっている」という形で用いられる。

2.1.4. 多義的別義(4): <不確定・未定であった><物事が><はっきりし><動かない状態になる> (「決める」別義(3)に対応)

- (13) 彼女は決まった店でしか買い物をしていない。
- (14) 参加者の顔ぶれはいつも決まっている。
- (15) あの人はいつも決まった時間にこの道を通る。
- (16) 彼と飲みに行く居酒屋はいつも決まっている。

別義(1)は「それまで不確定・未定であった物事がはっきりする」ということを表しているが、この「決まる」は、さらに進んで(問題となる物事が)一つの結果に落ち着くことが繰り返されるうちに、「習慣化した」ことを表しているのとらえられる。つまり、別義(4)は別義(1)から時間的隣接に基づく換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

なお、この「決まる」は、基本的に「決まっている」「決まった+名詞」という形で用いられる。さらに、「あの二人が会うと、決まって喧嘩になる」のように、いわゆる「副詞」としてもよく用いられる。

2.1.5. 多義的別義(5): <(人の)動作や服装が><その場の状況に><適合し><整った状態になる> (「決める」別義(4)に対応)

- (17) 今日の髪型は決まっているね。
- (18) バッチリ決まった彼のスーツ姿、格好いいですね。

- (19) 普段見ることのない彼女のドレス姿、なかなか決まっているでしょう。
(20) 花嫁の隣に立つ花婿は衣裳も立ち居振る舞いもビシッと決まっている。

別義(1)は「それまで不確定・未定であった物事がはっきりする」ということを表しているが、別義(5)は、様々な物事の中でも特に「人の動作や服装」に限定して用いられる。つまり、別義(5)は別義(1)がさらに限定されたものととらえられ、提喩(シネクドキー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

さらに、この「決まる」は、単に「不確定・未定であった動作や服装がはっきりする」ということを表しているのではなく、さらに進んで、動作や服装がはっきりする(一つの結果に落ち着く)ことによって、その場の状況に適合し、整っているということを表している。つまり、別義(5)は、別義(1)から原因と結果の関係に基づく換喩(メトニミー)によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、この「決まる」は「～決まっている」という形で用いられることが多い。

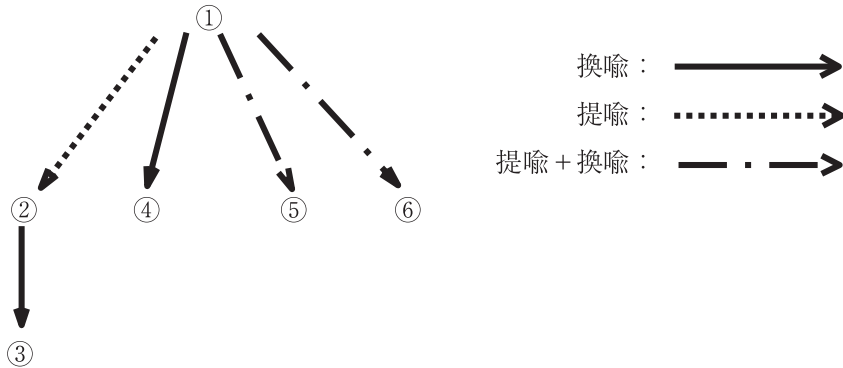
2.1.6. 多義的別義(6): <スポーツや演劇などで><技・演技が><狙い通りに成功する> (「決める」別義(5)に対応)

- (21) 相手の鮮やかな面が決まり、あっという間に勝負がついた。
(22) 練習の成果もあって、本番では演奏がバッチリ決まってとても嬉しかった。
(23) 先日の試合では途中出場の鈴木選手のゴールが決まり、逆転勝利を収めた。
(24) 彼のダイナミックな演技が見事に決まったとき、会場は熱狂の渦に包まれた。

別義(1)は「それまで不確定・未定であった物事がはっきりする」ということを表しているが、別義(6)は、様々な物事の中でも特に「(スポーツや演劇などの)技・演技」に限定して用いられる。つまり、別義(6)は別義(1)がさらに限定されたものととらえられ、提喩(シネクドキー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。さらに、この「決まる」は、単に「不確定・未定であった物事がはっきりする」ということを表しているのではなく、さらに進んで、(技や演技が一つの結果に落ち着くことによって)それが狙い通りに成功するということを表している。つまり、別義(6)は、別義(1)から原因と結果の関係に基づく換喩(メトニミー)によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

以上、本節では「決まる」について、6つの多義的別義を認め、分析を行った。また、別義間の関連性については比喩の観点から説明した。なお、「決まる」は以下のような多義構造を成している。

「決まる」の多義構造



2.2. 「決める」

本節では、「決まる」について5つの多義的別義を認め、考察を行う。

2.2.1. 多義的別義 (1) (基本義): <人や組織が><不確定・未定であった><物事を><はっきりさせる> (「決まる」別義 (1) に対応)

- (25) 友達と卒業旅行の日程を決める。
- (26) 今年のお歳暮は和菓子に決めました。
- (27) 市議会の重要案件は、多数決によって決められる。
- (28) 日本では、消費税などの税率は国が決めている。

別義 (1) は、それまでどうなるか分からなかった物事を明らかにする (一つの結果に落ち着かせる) ことを表す。例えば、例 (25) の場合「それまで未定であった卒業旅行の日程を、発話時点において、はじめて明らかにする」というようにとらえられる。

2.2.2. 多義的別義 (2): <人 (や組織) が><ある事柄に対して><自分の心情を><はっきりさせる> (「決まる」別義 (2) に対応)

- (29) 先日、腹を決めて退職届を出してきました。
- (30) すでに父は手術する覚悟を決めていた。
- (31) 心を決めて彼女に告白しましたが、見事に振られてしまいました。
- (32) 初めて会ったときから、彼女と結婚する気持ちを決めていました。

別義 (1) は、「それまで不確定・未定であった物事をはっきりさせる」ということを

表しているが、この「決める」は、様々な物事の中でも特に「人間の心情」に限定して用いられ、「(人の) 心をはっきりと一つに定める」ということを表している。つまり、別義(2)は別義(1)がさらに限定されたものととらえられ、提喩(シネクドキー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

2.2.3. 多義的別義(3): <人や組織が><不確定・未定であった><物事を><はっきりさせ><動かない状態にする> (「決まる」別義(4)に対応)

- (33) 日曜日は、家族サービスの日と決めている。
- (34) 朝食はいつもバナナと牛乳に決めている。
- (35) 最近、一生結婚しないと決めている人が増えている。
- (36) 仕事帰りの一杯は、家の近くの焼き鳥屋に決めている。

別義(1)は「それまで不確定・未定であった物事をはっきりさせる」ということを表しているが、この「決める」は、さらに進んで(問題となる物事を)一つの結果に落ち着かせることを繰り返しているうちに、「習慣化した」ことを表しているのととらえられる。つまり、別義(3)は別義(1)から時間的隣接に基づく換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、この「決める」は「決めている」という形で用いられる。

2.2.4. 多義的別義(4): <人が><動作や服装を><その場の状況に><適合するように><整える> (「決まる」別義(5)に対応)

- (37) 今日の彼は、白のスーツでバッチリ決めている。
- (38) あのレストランの従業員は、みんな制服でビシッと決めていて接客マナーも素晴らしい。
- (39) 幸せそうなカップルが素敵なチャペルで、綺麗にポーズを決めている。
- (40) あの女優は、髪型やドレスをバッチリ決めてファンとの記念撮影に応じた。

別義(1)は「それまで不確定・未定であった物事をはっきりさせる」ということを表しているが、別義(4)は、様々な物事の中でも特に「人の動作や服装」に限定して用いられる。つまり、別義(4)は別義(1)がさらに限定されたものととらえられ、提喩(シネクドキー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

さらに、この「決める」は、単に「不確定・未定であった物事をはっきりさせる」と

いうことを表しているのではなく、さらに進んで、動作や服装をはっきりさせる（一つの結果に落ち着かせる）ことによって、その場の状況に適合するように整えるということを表している。つまり、別義（4）は、別義（1）から原因と結果の関係に基づく換喩（メトニミー）によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、この「決める」は「～決めている」という形で用いられることが多い。

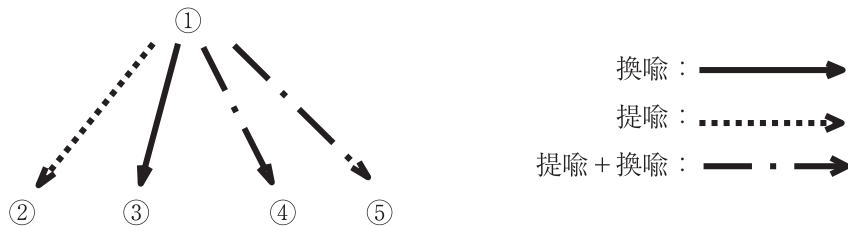
2.2.5. 多義的別義（5）：＜人が＞＜スポーツや演劇などで＞＜技・演技を＞＜狙い通りに成功させる＞（「決まる」別義（6）に対応）

- (41) ライバル選手は、序盤から次々と大技を決めてきた。
- (42) まさか、格下相手に一発で決められるとは思ってもありませんでした。
- (43) 今日の試合では、チームメイトの見事な連携プレーで次々と得点を決め、快勝した。
- (44) あの難しいセリフを完璧に決めるなんて、さすが天才子役だね。

別義（1）は「それまで不確定・未定であった物事をはっきりさせる」ということを表しているが、別義（5）は、様々な物事の中でも特に「（スポーツや演劇などの）技・演技」に限定して用いられる。つまり、別義（5）は別義（1）がさらに限定されたものにとらえられ、提喩（シネクドキー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。さらに、この「決める」は、単に「不確定・未定であった物事をはっきりさせる」ということを表しているのではなく、さらに進んで、（技や演技を一つの結果に落ち着かせることによって）それを狙い通りに成功させるということを表している。つまり、別義（5）は、別義（1）から原因と結果の関係に基づく換喩（メトニミー）によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

以上、本節では「決める」について、5つの多義的別義を認め、分析を行った。また、別義間の関連性については比喩の観点から説明した。なお、「決める」は以下のような多義構造を成している。

「決める」の多義構造



3. 日本語教育の観点からの考察—コロケーションの提示と誤用例分析—

本節では、以上の「決まる」と「決める」の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義の「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討する。

3.1. 「決まる」

3.1.1. 多義的別義 (1)

「コロケーション」

<もの・こと>が決まる：商品、色、教科書、離婚、勝敗、採用

<人・組織>が決まる：結婚相手、後任、大統領、代表、買い手、業者、企業

<場所・時期>が決まる：志望校、家、施設、会場、保育園、時間、予定、期間

<もの・こと・人・組織・場所・時期>に (と) 決まる：フランス料理、方針、対戦、次期会長、(開催地が) 東京、実施日

<手段・方法>で (によって) 決まる：多数決、話し合い、選挙、満場一致、抽選

<場所>で決まる：会議、国会、裁判所、総会、密室、機関

<時期>決まる：最初から、以前から、昨年、先月、昨日、3日前に、つい最近

<様態>決まる：とんとん拍子で、大体、はっきり、すんなり、ようやく、急遽

「誤用例」 <人>に決まる

(45) A：(出産した人に対して) どうなりましたか。

B：×娘 [息子] に {決まりました}。

○娘 [息子] が {生まれました}。

→自然・生理現象など、人間の意志が関与できない場合は使えない。

3.1.2. 多義的別義 (2)

「コロケーション」

<心情>が決まる：覚悟、気持ち、心、意思、意志、腹、考え、決意

<時期>決まる：初めから、前々から、すでに、当初から、ずっと前から

<様態>決まる：やっとな、ようやく、とうとう、ついに、ほぼ、ちゃんと

「誤用例」 <心情>が決まる

(46) ?今日は早く {寝る覚悟が決まった}。

○今日は早く {寝よう [寝ることにする]}。

→日常的な事柄については使いにくい。

3.1.3. 多義的別義 (3)

「コロケーション」

<もの・こと>が決まる：朝食、お酒、花、給料、車、人生、恋愛、仕事、研究、寿命、試験、政治、夏

<人・組織・もの・こと>が決まる：天才、馬鹿、美人、師匠、あの会社、あの国、パン、ひつまぶし、ビール、バラ、電車、後悔する、つらい、(みんなが) 欲しがる、いい、難しい、悪い、暑い

<時期・様態>決まる：以前から、昔から、ずっと前から、太古から、最初から、もちろん、当然、どうせ、間違いなく、絶対

3.1.4. 多義的別義 (4)

「コロケーション」

<もの・こと>が決まる：品目、メニュー、材料、楽器、球、配色、値段、予算、オーダー、キャラ、回答、工程

<人・組織>が決まる：顔ぶれ、仲間、参加者、生徒、業者、会社

<場所・時期>が決まる：店、居酒屋、病院、本屋、休みの日、雨の日

<もの・こと・人・組織・場所・時期>に(と)決まる：パン、5万円、散歩、友達、あの店、カフェ、日曜日

<時期・様態>決まる：毎日、いつも、毎回、毎年、ずっと前から、大体、ほぼ、きちんと、ほとんど、必ず、おおむね

「誤用例」

(47) ×彼の座る席は {決まった}。(別義 (1) なら OK)

(48) ○彼の座る席は {決まっている}。

→述語の位置に来る場合は、「決まっている」という形で用いられる。

3.1.5. 多義的別義 (5)

「コロケーション」

<動作・服装>が決まる：アクション、ポーズ、スーツ、ドレス、ヘアスタイル、ファッション

<手段・方法>で決まる：個性的なデザイン、スーツ、服装、メイク、ヒョウ柄、ミニスカート

<様態>決まる：格好良く、ぱっちり、きちんと、ちゃんと、きっちり、びしっと

「誤用例」

(49) ?今日の髪型は {決まった}。(別義 (1) なら OK)

○今日の髪型は {決まっている}。

→述語の位置に来る場合は、「決まっている」という形で用いられる。

3.1.6. 多義的別義 (6)

「コロケーション」

<技・演技>が決まる：シュート、ストレート、面、技、タックル、ジャンプ、蹴り、演奏、演技

<手段・方法>で決まる：見事なプレー、ヘディング、華麗なボールさばき、連携プレー、見事な作戦

<様態>決まる：ようやく、やっと、すんなり、一発で、ばっちり、次々（と）、あっさり

3.2. 「決める」

3.2.1. 多義的別義 (1)

「コロケーション」

<人・組織>が決める：先生、会長、自治体、企業、国

<人・組織・もの・こと>を決める：役員、チーム、首相、主将、生徒会長、業者、金額、分量、色、メニュー、品、車種、衣装、分野、規則、方法、予算、給与、結婚、内容、役割、大枠

<場所・時期>を決める：店、学校、部屋、行き先、ホテル、施設、予定、日取り、日時、納期、日程、スケジュール、締め切り

<もの・こと・人・組織・場所・時期>に（と）決める：和菓子、方針、次期社長、当社、候補地、実行日

<手段・方法>で（によって）決める：多数決、話し合い、投票、法律、方式、金利、くじ引き

<場所>で決める：国会、総会、議会、本部、機関、地方、密室

<時期・様態>決める：事前に、最初から、最後に、直後に、来月、自由に、勝手に、簡単に、慎重に、強引に、さっさと、しっかりと、はっきり

「誤用例」 <人>を決める

(50) ?娘 [息子] を {決める}。

○店の看板娘 [息子] を {決める}。

→「父」「母」など、すでに特定されている人については使いにくい。

3.2.2. 多義的別義 (2)

「コロケーション」

<心情>を決める：覚悟、腹、心、態度、意思、姿勢、判断、考え方、意志、決意

<時期・様態>決める：すでに、最初から、前から、初めから、以前から、昔から、
ついに、やっと、ようやく、しっかり、ちゃんと、すんなり、ひとまず

「誤用例」 <心情>を決める

(51) ?明日は少し早く {買い物に行く気持ちを決めた}。

○明日は少し早く {買い物に行こう [行くことにする]}。

○A氏はB氏に対して、{告訴する気持ちを決めた}。

→日常的な事柄については使いにくい。

3.2.3. 多義的別義 (3)

「コロケーション」

<人・組織>が決める：父、先生、社長、財務省、文科省、最高裁判所、業者

<人・組織>を決める：息子、次女、弟子、会社、取引先

<人・組織>に(と)決める：娘、後輩、結婚相手、証券会社、NHK

<もの・こと・場所・時期>を決める：おやつ、お小遣い、メニュー、基準、方針、
飲み屋、勤務先、居酒屋、図書館、クリスマス、大晦日

<もの・こと・場所・時期>に(と)決める：和菓子、5千円、ひつまぶし、5%以下、
残業無し、デパート、すし屋、美容院、ゴールデンウィーク、こどもの日、記念日

<時期・様態>決める：以前から、毎日、毎月、いつも、昔から、いつも、大体、ほ
とんど、大概、必ず

「誤用例」

(52) ×朝食はトーストと紅茶に {決めた}。(別義(1)ならOK)

○朝食はトーストと紅茶に {決めている}。

→述語の位置に来る場合は、「決めている」という形で用いられる。

3.2.4. 多義的別義 (4)

「コロケーション」

<動作・服装>を(で)決める：ポーズ、アクション、スーツ、ドレス、ネクタイ、
ファッション、スタイル

<様態>決める：おしゃれに、クールに、綺麗に、格好良く、ばっちり、きちんと、
びしっと

「誤用例」

(53) ?花子は白のワンピースで {決めた}。

○花子は白のワンピースで {決めている}。

○花子は白のワンピースで {決めてきた [みた]}。

→述語の位置に来る場合は、「決めている」という形で用いることが多い。

3.2.5. 多義的別義 (5)

「コロケーション」

<技・演技>を決める：シュート、スクイズ、上手投げ、ゴール、ジャンプ、セリフ、技、演技

<手段・方法>で決める：連携プレー、ヘディング、華麗なボールさばき、セットプレー、見事な戦術、頭

<様態>決める：格好良く、一発で、絶妙なタイミングで、ようやく、やっと、すんなり、次々 (と)、あっさり

4. まとめ

以上、本稿では動詞「決まる」と「決める」が持つ複数の意味を記述し、それら複数の意味の関連性（多義構造）について考察した。その結果、「決まる」については6つ、「決める」については5つの多義的別義を認定することができた。

また、この2語は自・他対応動詞であるが、別義間にも基本的に対応関係にあることが分かった。なお、別義間の関連性については、提喩（シネクドキー）と換喩（メトニミー）という2つの比喩の観点から考察を行い、別義間の関連性を明らかにすることができた。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察した。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討した。

付記：本稿は『国立国語研究所基本動詞用法ハンドブック (<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp>)』において筆者が担当した「決まる」「決める」と2016年6月に愛知県立大学で行われた第2回日本語教育学会研究集会における発表内容を修正・加筆したものである。

注

- 1 国広（1982:97）は、多義語について『『多義語（polysemic word）』とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う』と定義している。本稿においてもこの定義に従う。
- 2 初山（2001:33）は「多義語の複数の意味には相互に何らかの関連が認められるのであるから、個々の多義語の分析にあたり、その関連の実態を明らかにすることが課題となる」とし、「メタファー、シネクドキー、メトニミーという3種の比喩が、複数の意味の関連づけに重要な役割を果たすと考えている」と述べている。
- 3 通常、我々が視覚などの感覚器官を通してある対象を知覚した時、その対象を必要なかぎりどこまでも評価し、判断しようとする。つまり、その存在を認知しそこで止まるか、それともその対象に注意を集中してさらなる判断を下そうとするかは、主体の関心のありようや必要性によってさまざまなケースがありうる（田中（1999））。

参考文献

- 北原保雄（2011）『明鏡国語辞典』第3版，大修館書店．
国広哲弥（1982）『意味論の方法』，大修館書店．
新村 出（編）（2008）『広辞苑』第6版，岩波書店．
田中聡子（1999）『視覚動詞の意味論』，名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士学位論文．
松村 明（編）（2006）『大辞林』第3版，三省堂．
初山洋介（2001）「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喩」『認知言語学論考』1， pp.29-58，ひつじ書房．
初山洋介・深田 智（2003）「第3章 意味の拡張」，松本曜編『認知意味論』， pp.73-134，大修館書店．
森田良行（1989）『基礎日本語辞典』，角川書店．
森山 新（編著）（2012）『日本語多義語学習辞典 動詞編』，アルク．
山田忠雄・柴田 武他（編）（2012）『新明解国語辞典』第6版，三省堂．

例文出典

※本発表における例文は、以下のコーパスを参考にして作った作例である。

- (1) NINJAL-LWP for TWC (<http://corpus.tsukuba.ac.jp/>)
- (2) KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>)

